



小児がんセンターたより

「診療ガイドライン」って何？

最近、医療における「ガイドライン」がたくさん出てきています。ご自分・ご家族の病気をネットで調べると、「〇〇がん診療ガイドライン」などがヒットすることがあると思います。

一体、ガイドラインって何でしょうか？

ガイドラインとは、「正しいと判断された情報を元に、医師などの医療者が迷った時に判断する材料を提供するもの」と言えます。いろいろな学会などが中心になり、作ってきました。

日本にはたくさんの学会がありますが、日本小児血液・がん学会は、これを読まれている皆さんのお子様の病気に一番関連する学会の一つです。

この中にはガイドライン委員会、というものがあり、ここでガイドラインを作る作業をしています。

つい最近、小児がんのガイドラインの改定作業がほぼ終わり、現在出版に向けて最後の調整をしています。

ガイドラインを作るには、①全体を統括する人たち ②臨床医はどんなことが知りたいのかを考えて、③の人たちの調べたことを使って文章を作る人たち ③正しい論文を選び、読み、理解して情報をまとめる人たちが集まって仕事をします。今回の場合、②の作成委員は 103 名、③のシステマティックレビュー委員は 128 名でした。全員小児がんの専門家で、この人たちが 3 年近くかかって 1 冊のガイドラインを作ったのです。ものすごい労力であることが分かりますよね。

そうやって作ったガイドラインも、急速な医学の進歩ですぐに古くなってしまいます。今回は 9 年ぶりの大改訂でした。

例えば、「△△期の〇〇腫瘍に対する××薬を用いた化学療法は推奨されるか」など（これをクリニカルクエスションと言います）が項目として挙げられ、これに対する科学的な答えが書いてある、というのがガイドラインです。

前述のとおり、日本の英知が集まって作ったものですから、これを元に判断して治療を進める、ということになります。もしこれがなければ、一から論文を探し、読み込んで判断することになります。今まではそのようにやっていました。

そんなの、生成 AI に聞いてみればいいじゃないか、と思われるかもしれませんが。しかし世の中に氾濫している情報は玉石混交で、ものすごくいい加減なことが書いてある論文も実はたくさんあるのです。これらのうち、どれが正しいかを判断する力はまだ AI にはありません。なので、試しに生成 AI に聞いてみると、「〇〇ガイドラインにはこう書いてあります」という答えが返ってきたりします。

医師からの説明で、「ガイドラインでは推奨されておりますので、この治療を選択したいと思うのですが、いかがですか？」と言われたら思い出し、てみてください。

小児がんセンター長 北河 徳彦

CCS（子ども療養支援士）ってなに？

CCS（Child Care Staff：子ども療養支援士）とは・・・

CCSは、子どもと家族が療養生活の様々なストレスや不安を軽減できるように関わっています。どんな時も、第一に子どもの置かれている状況、子どもの気持ちを考え、家族、そして様々な職種と連携を取りながら、子どもと関わっています。

CCSの活動を紹介します！

★プレパレーション

病気・入院・検査・処置・手術などによる子どもの不安や恐怖をできるだけ少なくし、それぞれの子どもに合わせ、絵本や実際の医療物品を使って心の準備をするお手伝いをします。

★ディストラクション

実際の検査・処置・治療中に、おもちゃや絵本などを使って、子どもの興味のあるもの・ことに集中できるように関わり、子どもの不安や恐怖の軽減を目指します。

★病気を理解するためのサポート

子ども自身が自分の病気をきちんと理解して、できるだけ前向きに治療に望めるように、どのように伝えたらよいかを一緒に考えます。また病名の告知やその前後のフォローを行います。

★治癒的な遊び

入院生活における様々な感情やストレスを適切な方法で表出できるようすること、医療環境や医療体験に適應できるようにすることなどを目標にして、一緒に遊びます。

★家族・きょうだいサポート

入院する子どものご家族と病気のことから他愛のないことまでたくさんお話をします。また様々な気持ちを抱えるごきょうだいへのサポートを行います。



実際にこのようなお声をいただきました！

CCSがいてくれて、辛い入院生活が楽しい入院生活になりました！（お子さんより）



プレパレーションの時間は楽しみつつも様々なことを受け入れる時間になっていたと思います。（お母さまより）



「2025年度神奈川県小児がん従事者研修」のお知らせ（※医療従事者向けとなります）

6月17日（火）小児固形腫瘍と手術療法
7月15日（火）小児がんと医療安全
8月19日（火）小児がん治療における暴露対策
9月16日（火）小児がんの晩期合併症
10月21日（火）小児・AYAがん患者の看護
11月25日（火）小児・AYAがん患者家族の支援
12月16日（火）小児緩和医療について

18:00
～
19:00
オンライン
及び
会場参加可能

お申込みはこちらから



国際小児がんデーイベントを開催しました！

今年も、2月15日の国際小児がんデーにちなんで、2025年2月9日（日）に、横浜そごう前新都市プラザにて、小児がん啓発イベント「みんなで知ろう、小児がんのこと！」を開催しました。今年は、横浜市がん・疾病対策課から「メタバース体験会」や、支援団体からのバルーンアートや風船のプレゼント、フットサル体験と通りすがりのこども達に興味を持ってもらえるイベントを企画し、たくさんの人々に集ってもらえることができました。

院内職員によるバンド「Swing for kids」の演奏が一番の盛り上がりで、階段や通路に立ち止まって多くの方々が見てくださいました。今年は参加者からのアンケートも頂いたので、一部ご紹介します。



こーんにーちはー！！
黒田総長の和やかな挨拶でスタート



↑バルーンアート↓フットサル



↓横浜市メタバース体験会↓献血者へのメッセージ



恒例の Swing for kids

小児がんに関連したご相談は
「小児がん相談支援室」
(本館 1 階 7 番窓口)
までご連絡ください
時間：平日（月～金）
8：30～17：00

相談方法：面談・電話・メール
電話：045-711-2351（代）
E-mail:
shounigan.1591@kanagawa-
pho.jp

・もっともっと小児がんのことを知ってもらいたいです。乳がんのピンクリボンはいだいぶ広まってきたように思うので、ゴールドリボンが広まってほしいです。こういうイベントの機会を増やせるといいと思います。
・スタッフの方に話しかけていただき自分の知りたいことや聞きたいことをたくさん学べたのでとても良かったです。知りたいと思ってネットで見ただけでは限界があったので実際に話が聞けてとてもありがたかったです。
・こどもは、メタバース体験が楽しかったと言っていました。風船を貰えて喜んでいました。直接は応援に行けませんが、応援しています！
・病気を持つ子どもたちが好きなことができる環境を作りたいです。フットサルを頑張ってくれて笑顔が見られたのが嬉しかったです。

参加者のアンケートより抜粋

各部門からのお知らせ

～看護局～

みなさん、こんにちは。令和6年の4月に副院長兼看護局長を拝命しました樋口と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

看護局は、令和7年4月1日現在で656名の看護師、17名の保育士、35名の看護補助者が在籍する大所帯です。外来や病棟、他に小児がん相談支援室、治験管理室、緩和ケア普及室や退院・在宅支援室など様々な部署で小児がん患者さんの支援にあたっています。看護局では、「こどもの最善を考え、看護を提供します」を理念に掲げ、安全・安心な看護はもとより、他の職種と連携し様々な視点でより良い医療を提供するためのチーム医療を推進しています。更に、自分たちの看護の質を高めるために、小児がんや看護に関する学会や研修会にも積極的に参加しています。

また、全国の小児専門病院や小児医療を提供している医療機関とのネットワークがあり、小児がん看護に携わる看護師同志の情報交換や困りごとの相談をしながら日ごろの取り組みに活かしています。他の施設に出向いて見学する機会もあり、自施設の良い部分を再確認し、改善点を見つける機会にもなっています。

着任して1年、ご家族と離れた環境で治療に向かい、泣いたり笑ったりしながら精一杯頑張っているこども達の姿に何度も胸が熱くなりました。患者さんにご家族が少しでも安心して医療を受けていただけるように、そして、みんなの「げんき」と「えがお」のために、自己研鑽を怠らず、患者さんやご家族の思いを大切にできる看護を実践していきたいと思っています。

看護師は24時間患者さんの傍にいます。いつでもお声かけください。

副院長兼看護局長 樋口美佳



地方独立行政法人 神奈川県立病院機構
神奈川県立
こども医療センター
Kanagawa Children's Medical Center

【発行元】
神奈川県立こども医療センター小児がんセンター
〒232-8555 神奈川県横浜市南区六ツ川 2-138-4
TEL: 045-711-2351 (代)
Email: shounigan.1591@kanagawa-pho.jp